

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成 28 年度第 4 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	平成 28 年 11 月 22 日 (火) 午後 3 時から午後 5 時 30 分まで		
開催場所	小金井市中間処理場事務所棟 研修室 I		
出席者	委員	<出席者：12 名> 渡辺会長・岡山副会長・大江委員・岸野委員・林委員・清水委員・多田委員・黒須委員・石田委員・北澤委員・杉本委員・吉田委員 <欠席者：3 名>	
	事務局	小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・富田・穂山・立川・佐藤・玉井	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	0
会議次第	1 開 会 2 報 告 燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について 新可燃ごみ処理施設整備事業の環境影響評価書の閲覧について 清掃関連施設整備基本計画に関する地元協議会の開催について 専門委員会（未活用資源（可燃ごみに含まれる資源化可能物）の有効利用方策の調査・研究に関する小委員会）第 1 回専門委員会開催の報告について 3 議 題 平成 29 年度一般廃棄物処理計画について		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他	次回開催予定 平成 28 年 12 月 21 日 (水) 小金井市中間処理場 事務所棟研修室 I		

審議過程（主な発言等）

渡辺会長	これより平成28年度第4回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。本日は、山田委員から欠席の連絡が届いている。 それでは、事務局から配布資料について確認をお願いしたい。
玉井減量推進係主任	(配布資料の確認)
渡辺会長	それでは、事務局に提出資料の説明と報告をお願いする。
富田減量推進係長	(「燃やすごみの処理量の昨年度との月別比較について」説明)
穂山清掃係長	(「生ごみ処理機購入者アンケート集計結果」報告)
佐藤ごみ処理施設担当専任主査	(「新可燃ごみ処理施設整備事業の環境影響評価書の閲覧について」説明)
小野ごみ対策課長	(「清掃関連施設整備基本計画に関する候補地周辺自治会等協議会の開催について」報告)
玉井減量推進係主任	それでは、第1回専門委員会（可燃ごみに含まれる資源化可能物の有効利用方策の調査・検討に関する小委員会）の報告を、委員長に選任された岡山委員長をお願いしたい。
岡山副会長	(「未活用資源（可燃ごみに含まれる資源化可能物）の有効利用方策の調査・研究に関する小委員会第1回」報告)
渡辺会長	ここまでで何か質問等はあるか。
清水委員	今回、色々な施設が見直されるということだが、できるだけ直営でやる事業を削っていくというのが行政の方向なのか。中間処理施設やリサイクルセンターなどを一般業者に回すという発想があるのか。また、そういう自治体があるのか。取り得るやり方をコストや財政的な観点から評価する手続きがされているのか。尚且つ立地という意味で、廃棄物は近隣から敬遠されるので、立地関係の見通しが立つのか。ジャノメ跡地にも一部の施設があって庁舎建設の足枷になっている。総合的に把握・検討する会議はどうなっているのか。
小野ごみ対策課長	清掃関連施設としては、庁舎建設予定地に空き缶・古紙・ペットボトルの中間処理施設、古布・古紙のストックヤードを持っている。これらを庁舎建設に当たって移動させなければならない。また、中間処理場も建設後30年を経過しているため老朽化が著しいので、その在り方を考えなければならない。更に、小金井市としては持っていないが、他市の事例では、びんの処理施設を持っている市が多いので、びんのストックヤード等についても、今回の清掃関連施設整備基本計画の中で検討していく。現時点では、中間処理場と二枚橋焼却場跡地が候補地となっているので、各協議会に私達の案を提案して、協議して

審議過程（主な発言等）

	<p>頂くことになる。私達の基本的なスタンスは、可燃ごみについては、現在は広域支援をお願いしているし、平成32年度以降については浅川清流環境組合があるが、市内にごみ関係の中間処理施設を残さないという考えは持っていない。何らかの施設を作っていかなければならない。大江先生が、清掃関連施設整備基本計画検討会議に参加しているので意見交換をしながら、運営の在り方や処理方法の在り方等に議論が及んだ場合は、廃棄物減量等推進審議会の所掌になるので、諮問をして議論して頂くことになる。</p>
清水委員	<p>全体を検討する別の審議会があって、そこに大江先生が出るということか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>先ず、地元の二つの協議会に説明して、ご理解を得なければならない。検討会議で基本計画の素案を作るに当たって、様々な意見交換をして頂く。最終的に基本計画を作成するのは市だが、市からの諮問を議論して答申を頂く廃棄物減量等推進審議会とは違って、検討会議では、意見を出し合っていて、最終的に私達が作る基本計画に対する意見等についてまとめて頂く予定だ。地元の協議会の方々に負担を掛けるので、慎重に議論を重ねて説明をして、理解を得て、検討会議の意見も聴いて計画を作っていくという流れになる。</p>
清水委員	<p>小委員会で生ごみを分別できないか検討しているが、その先、どこへ持って行くのか、ということ誰が考えるのか。ごみ対策課で総合的に勘案して頂けるのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>ごみの減量及び資源化の推進を図っていくために、家庭から出る燃やすごみの中で50%以上を占める生ごみに関しては、補助金によって生ごみ処理機を購入して、乾燥させて、燃やすごみや堆肥に出して貰う形を取っている。しかし、小委員会の意見を踏まえながら、市としての方向性を検討しなければならない時期に来ていると考えている。</p>
林委員	<p>中間処理施設の委託化については如何か。</p>
小野ごみ対策課長	<p>中間処理場は市の施設であるが、作業している人は委託業者だ。飽くまでも建物の管理として市職員が2名入っている。空き缶・ペットボトル処理場については、建物の管理はごみ対策課だが、作業する人は委託業者だ。基本計画を作成するに当たって、今後の運営について検討していかなければならない。今の段階でお示しはできないが、ある程度の案は持っている。</p>
杉本委員	<p>破砕など自前で処理しているものはないのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>ほとんど委託している。一部直営で行っている枝木の収集も平成2</p>

審議過程（主な発言等）

渡辺会長	<p>9年度から委託化する。処理計画の審議の中で詳細を報告させて頂く。</p> <p>生ごみ処理機アンケートの集計結果については、今後小委員会でも使えると思う。他に何かないか。</p>
岸野委員	<p>岡山副会長にお訊きしたいのだが、4の口だが、廃油は今後行政でも取り扱うのか。</p>
岡山副会長	<p>この委員会は、調査・研究するところだ。今後全市的にできるかどうかを把握するための調査だ。</p>
岸野委員	<p>以前、自治会で夏休みの生ごみ投入の際に廃油も回収したことがある。しかし、今は行っていない。</p>
岡山副会長	<p>良い事例なので、その情報を小委員会にも頂きたい。</p>
林委員	<p>アンケートの件だが、どれも2年経過後約85%の人が使っているということだが、もっと長期的に調査しなければ意味がない。アンケートの取り方や内容を検討すべきだ。</p>
小野ごみ対策課長	<p>毎年、約300件に補助金を出している。5年間となると1,500件にアンケートを送付しなければならない。そうなると予算の関係上、難しい。議論しなければならないが、本日はご意見として承っておく。</p>
大江委員	<p>市がかなり力を入れて行ってきた施策だが、アンケート内容が充実していない。経年的なより突っ込んだ調査を行っていかないと本当の効果に結び付けられない。アンケート内容を審議会に掛けて頂けると、随分中身が違ってくると思うので、是非お願いしたい。</p>
渡辺会長	<p>では、事務局に資料説明をお願いします。</p>
富田減量推進係長	<p>(「平成29年度一般廃棄物処理計画修正案 第1稿」説明)</p>
渡辺会長	<p>では、林委員から諮問案へのコメントをお願いしたい。</p>
林委員	<p>(「参考資料」説明)</p>
渡辺会長	<p>事務局から修正案が出ているが、それに関して何かあるか。</p>
杉本委員	<p>13ページの市民1人1日当たりのごみ排出量だが、生ごみを3g減らすという目標は、市民にとってはわかり易く効果的だが、施策として取り組むには効果的ではない。年間の排出量として明記した方が良いのではないか。この表のどこかに年間の排出量目標を付け加え</p>

審議過程（主な発言等）

渡辺会長	<p>る方が良いのではないか。</p> <p>12ページの計画処理量の算定の基になっているのが13ページの1人当たりの削減量になっている。</p>
杉本委員	<p>括弧書きでも年間目標量を明記した方が施策としてやり易いのではないのか。1人1日3g減らすというよりも、年間110t減らすというように明記した方が良い。</p>
小野ごみ対策課長	<p>杉本委員の発言の意図は良くわかる。平成27年度からの10年間の基本計画策定の際にも議論した。全体の処理量の5%減を目標としてきたが、1%程度しか減量できなかった。市民一人ひとりに理解してもらおう為には何をしたら良いかを考えたときに1人1日当たりを目標に設定した。現状は、毎年人口が1,000人くらい増えているので、総ごみ量はなかなか減らない。ごみ対策課としては、市民1人1日あたりの家庭系ごみの排出量を減らして頂くことが一番具体的な目標だと考えているので、ご理解頂きたい。</p>
大江委員	<p>3gでも減らそうという目標は必要で、現状維持を保った上で施策を考える必要がある。画期的に減らすには、3gの積み重ねではなく、違った視点が必要なことは承知している。</p>
杉本委員	<p>生ごみを出さない人を作った方が効果的だ。</p>
岡山副会長	<p>14ページ上部に3g減らす為には具体的にどうすれば良いか、マイバッグを持って行けば7g減らすことができるなど例示が挙げられている。生ごみは水分を含んで重いので、水切りや乾燥させることで減る。この取組事例に水切り等を載せたいところだが、小金井市はこれまで散々取り組んで来たため、わざわざ書くことではないと思う。</p>
大江委員	<p>13ページはあくまでも平均で出している。杉本委員の発言のように全く生ごみを出さない人がいれば効果的だが、それは16ページ以降の施策の中で出して行ければ良い。平均的なイメージとしては、グラム表記の方が分かり易い。12ページで差を出せばもっと分かり易いかも知れない。</p>
石田委員	<p>市から提供された参考資料の件だが、考え方は基本的に良いと思う。大事なものは3番で、実施項目を分別する。やらなければならないものは、表に書く必要はない。計画を立てるときに、恒常的なものに関しては、やることの項目だけ表せばよい。計画を立てるというのは、目標を立てて、積み上げて行かなければならないものや削って行かないものに対して目標値があるので、それに関しては表に載せる。よって、先ず3番から始めれば、必然的に目標値を立てられないものはない。先ず3番を説明して頂ければ、皆さん、合理的だと思ってくれたと思</p>

審議過程（主な発言等）

<p>林委員</p>	<p>う。</p> <p>実施目標を立てづらいものは入れる必要はないし、本来市の業務としてやる予定のものは、単に項目として出せば良い。市が市民に宣言しておきたいことがあれば入れるのは良いが、いつまでやるのかということも宣言して欲しいというのが私の書いた主旨だ。</p>
<p>杉本委員</p>	<p>例えば、「広報媒体活用に因る」という言葉が何度も出てきているので、言葉を取捨選択するべきだ。項目では、キャンペーンの実施回数の目標はきちんと挙げたほうが良い。その他、市報に何回載せるとか、イベントに何回出すとか、具体的に目標を立てて書いた方が分かり易いと思う。</p>
<p>多田（岳）委員</p>	<p>岡山委員の発言のように、2番以降は実施目標の欄は削除して、1番は実施目標を残す方向が良いと思う。</p>
<p>岡山副会長</p>	<p>3番は馴染みにくくても除外するには抵抗がある。施策としてこれは市がやると宣言しておいた方が良いと思っている。</p>
<p>大江委員</p>	<p>私も評価した際に今のこの方式が評価し辛かった。計画項目（取組内容）は目標なので、計画目標とか取組目標とすればはっきりする。最優先強化とか強化、充実というようにしなければ、メリハリが付かないし、毎年同じようなものを挙げても駄目なので、次年度に向けた最優先強化ということで、施策を具体化して行こうとやってきた。しかし、これが計画項目の中に入ってしまうと、ごみを出さないライフスタイルの推進が最優先強化で達成できるのかということとそうではない。むしろ施策の方に入れて最優先強化にした方が分かり易い。そうすると実施目標となっているところは、実施目標ではなく、活動計画とかと言えば行政として、今回4回市報に載せるという目標ではあるが、実際行政がスケジュールに載せた活動とイコールになっている。実施目標という計画目標と関わったような実施目標になって大ききのメリハリが見えなくなる。最初の計画項目というのは大きな目標である。それを施策の中で整理して、更に実施目標的なものが必要であれば、何回やるとか敢えて目標を入れなくても行動項目とかでも良いと思う。これから入れ替え、削除、統合をやって貰えば良い。</p>
<p>石田委員</p>	<p>6月にならないと出て来ないものもあり得ると思うが、それはそれで対応して決め得るものを書けば良いのではないかな。あえて明言せず、出来るものはやるが、出来ないものは止むを得ないと考えても良いのではないかなと思う。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>大江先生の理論は理解できるが、活動計画というよりも実施目標の方が濃さが出ると思う。「随時」や「随時支援」、「研究」というものは、数値的なものに変えようではないかな。市としては、人的支援や財政的</p>

審議過程（主な発言等）

大江委員	<p>支援はネックになってできないかも知れない。しかし、「随時」というものを少しでも数値的なものに変える必要があるのではないかと思う。</p> <p>大目標に対する具体目標みたいなメリハリにすれば、施策の形が活きて来ると思う。「随時」を減らして行こうというのは、記述に相応しくないものは減らして行こうというご意見だ。</p>
北澤委員	<p>計画項目というのは目的だ。明確に目標が立てられるものは立てる。しかし、目標が立てられないものは立てなくても良いのではないか。ある程度やりたいことを施策の中で明確にすれば良い。目的・目標とその詳細な年度の目標を整理しては如何か。林委員からの提案も含めて再度考えて次回に臨んだ方が良くと思う。</p>
林委員	<p>確かに市民まで巻き込んだPDC Aにならないというのはそうだが、計画して、実施して、測定して、結果を測って、あのやり方が駄目だったかどうか、PDC Aを回す主体というのは、やはり役所なので、個々の市民がどれだけごみを出すか分からないので、PDC Aにそぐわないというのとは違うと思う。</p>
北澤委員	<p>PDC AのCがなかなかうまく行かない。チェックができない。これはアバウトな実績であって、市民一人ひとりがどこまでやっているのかが一番重要なので、活動に結び付いていなければ平均で出てくるだけだ。水切りにしても、100人いても1人しかやらなかったとかごみを出すにしても、集団で生ごみをやっているが、やっている人は真剣にやっている。やらない人をどう巻き込んでいくかというのが一番大事だ。この辺がチェックでうまく出て来ないと考えている。</p>
林委員	<p>「随時」が多く入れられている。これを見ると、やる項目があるのに、いつやるのかということになるので、この書き方はまずいのではないか。設定しなくても良いものは設定しなくても良いが、設定しておいた方が良いものは何らかの形で考えるべきだ。</p>
北澤委員	<p>「随時」というのは、1回とか少なくとも年1回はやるとかにしてはどうかと言ったことがあるのだが、「随時」は「随時」のまま。実績報告の中で分析解析して、どう変えて行こうかということにしても良いのかと思う。</p>
清水委員	<p>16ページ以降のものは、計画項目に書かれている内容と基本計画の枠組みをそのまま踏襲して来ている。その枠組みは変えられない。施策は、実績評価した項目の中から絞り込んで減って来ている。この施策は、過去の様々なアイデアが積み重なって出て来ている内容。それを更に絞り込んだ内容で今出来上がっている。新しく追加する項目を林委員が書いてくれているが、余り皆の意見をアトランダムに入れ</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>ていくと何に焦点を絞ってやって行くのか分らなくなる。実績報告の中で絞り込んで、必要であれば新しく追加する項目はまた検討して行けば良い。項目をどう絞り込んで、どういう根拠でやるか。取り敢えず27年度までに出てきた中から28年度重点を置きたいとか評価し易いとか、色々な選択基準があるが、その中で絞り込もうということか。</p>
渡辺会長	<p>清水委員のご意見は、今現在、各施策に対して実施目標を立てるようになってきているが、これを改め、選んだものだけに関して目標を立てるとのことだ。</p>
清水委員	<p>全体として目標が出ているものもあるし、出ていないものもある。それをどう書くかをあまり議論し過ぎることもない。</p>
渡辺会長	<p>一つのやり方として、実施目標数値は全く入れないという路線もあり得るだろう。それとも何らかの形で目標は示すが、現状とは違う形で示すのか、改善案の表どおり、ここを埋める、随時にする、横棒を入れるという形で対応するのかということを考えなければならない。</p>
林委員	<p>実施目標を入れないという選択肢については誰も触れていない。実施目標が必要なものは入れようということだと思う。基本的には、その部分に関しては合意できていると理解している。</p>
岡山副会長	<p>施策の評価をするに当たって、目標値があると目標がクリアできたかどうかということが採点する時の一つの基準になってやり易い。また、これは行政計画なので、行政が行政のために作っている計画だ。行政が市民にやって貰いたいのためにこんなことをやってはどうか、と言っているわけだ。林委員が書いてくれているように、学習の場の提供が40件というのが教育の実施になっているが、そうではなくて、教育の場を設けて最低でも40回やろうというのが、市の目標である。</p>
渡辺会長	<p>目標設定の仕方には色々あると思う。例えば、生ごみの水切りを進めるというのであれば、組成調査して水分含有量をこれだけ減らすという設定の仕方もある。しかし、やることとの対応がどう取れるかだとか市だけではどうにもならないので、何を何回やるという目標の設定の仕方もあるので、そこも考えようと思う。マイバッグを持っているかどうかアンケートを取って、率が上がる下がるを目標にするのも一つの形であると思うが、そういう設定にするのか、それとも市がやることに対する回数を目標にするのか、そこも一つの考え方だ。</p>
北澤委員	<p>もう少し効率よくやり方を考える必要がある。また、計画項目と施策の関連性が良く分らない。結局、ライフスタイルの変革の支援というのは、施策の何をやったら一番効いて来るのか、ということを明確にして頂かないと良く分らない。どこまでやれば良いかということも出</p>

審議過程（主な発言等）

杉本委員	<p>て来ない。例えば、学習機会への参加及び学習の場の提供であれば、最優先強化の中の何が出来るのか。施策と計画の結びつきを明確化して、実施目標が立つのか立たないのか、そういう見方もして頂きたい。</p> <p>全く同感だ。</p>
林委員	<p>実績報告を見る限り、ライフスタイルの変革への支援というのは最優先強化で、対応する施策は①～⑦で、そういう紐の付け方しかできない。</p>
岡山副会長	<p>PDCAのCをしてAにどう改善に活かすか。例えば、夏休みの生ごみ投入の目標が2, 500人だとすると、若し達成しなければ、5番の普及啓発の方で重点的にやって、次の年にうまく行けば良い。次に繋げる構造になっていない。そういうものをあぶり出せるようになると良いと思う。</p>
渡辺会長	<p>何らかの目標は必要であるということにおいては一致しているので、目標設定をどうして行くかについては、次回以降考えていくことになるかと思う。では、その他事務局から連絡等はあるか。</p>
玉井減量推進係主任	<p>今回は、12月21日水曜日、15時から中間処理場事務所棟研修室にて開催の予定である。</p>
黒須委員	<p>質問だが、何故ごみ・リサイクルカレンダーに市民1人4gごみを減らそうとか、ビニール袋1枚で7g減らすことができるとか載せないのか。このカレンダーはごみ対策課と家庭を結ぶ大切なツールだ。表紙などをもっと工夫したり、ごみを出す人に訴えるようなカレンダーにして頂きたい。</p>
小野ごみ対策課長	<p>ご意見として受け止める。</p>
渡辺会長	<p>それでは、これで閉会とする。</p>

以上